



JNN 「報道の日2011 記憶と記録そして願い」

12月25日(日)夜放送(19:30~20:00)

(TBS 宮田様よりのメール)

今回の企画は、御校の吹奏楽・合唱部が歌う「あすという日が」を軸に“音楽と復興”を描きます。その放送にあたり、東京のTBSには、希望の歌として広がった「あすという日が」を歌う八軒中学校のみなさまと津波で壊れたピアノを見事に再生させたピアノがあり、また福島から、原発被害で離ればなれになってしまった原町高校の吹奏楽部。

そして、石巻からは、亡き母と習っていた思い出の和太鼓の演奏がございます。その3カ所を生放送でつなげることで、今年あったあの震災を振り返り、これからの未来への希望を描きたいと思っております。

TBSのWebページには、次のように記されています。

第四部「明日へ...」12月25日(日)19:25頃~22:54

過酷な状況や幾多の困難を乗り越え、前向きに歩みだした人々を追う。そこには、手と手を取り合い献身的に支え合う日本人の姿があった。様々な立場で震災と闘った人々の人間ドキュメント。TBS、JNNが総力を結集してお届けする!

▼「合唱♪あすという日が」

多くの方が亡くなった仙台市若林区にある仙台市立八軒中学校。合唱部は全国大会常連の強豪だ。震災直後、避難所となった体育館で生徒たちが歌ったのが「あすという日が」という曲だった。その歌声に多くの人々が涙を流し、前向きに生きる勇気を得た。一方、福島では津波でボロボロだった状態から丹念に修理されようやく蘇ったピアノがあった。また、原発の影響でバラバラになった部員がようやく集まることのできた高校の吹奏楽部も...。それぞれの思いが込められた美しい音色がハーモニーを奏でる合唱プロジェクトをお届けする。

お知らせ

全校生徒16名の国境の島
長崎対馬市豆蔵中学校より詩
とメッセージが届きました。

今回、CDを作成してくれた
フェザンレーヴよりメッセー
ジが届いております。



青原校長、本当にCDの件等
おかげで済みました。
今後津波の助けをかりたい。
今年真的に謝々! 荒井一孝 大泉 郎
このプロジェクトに携わったことは生涯の宝となりました。
ご尽力 本当にありがとうございました。 野地敬之
今年は本当にありがとうございました。どんな形でも
出会う。一緒に活動できている事嬉しく思います。
今後宜しくお願ひ致します。 森 幸之
 本日は本当にお世話になりました。八軒中学校の皆様
 は出会った事私の誇りです。来年もよろしくお願い致します。
 fais un reve おかにはれるよう頑張ります! 唐澤
 株式会社 フェザンレーヴ